

令和6年台東区観光統計について

1 目的等について

(1) 目的

訪日外国人旅行者が過去最高を記録するなどの現状の下、今後の観光施策に活かしていくために、令和6年の本区における観光統計を推計・算出した。

(2) 調査データ

①調査期間

令和6年1月から12月まで

②調査内容

ア．モバイルデータ（ドコモ・モバイル空間統計）

イ．旅行・観光消費動向調査／インバウンド消費動向調査／宿泊旅行統計調査（観光庁実施）

ウ．来訪者パラメータ調査（区実施）

2 結果概要

(1) 観光客数の推計

	令和6年	前年比	令和5年
年間観光客数	4,121万人	106.7%	3,862万人
年間外国人観光客数 (内数)	640万人	145.0%	442万人

(2) 観光消費額の推計

	令和6年	前年比	令和5年
年間観光消費額	4,058億円	118.9%	3,412億円
1人当たりの消費額	9,847円	111.4%	8,836円

(3) 滞在時間（日帰り客）

	令和6年	前年比	令和5年
平均滞在時間	4.40時間	0.01時間	4.39時間

(4) 宿泊日数

	都内在住者	都外在住者	海外在住者
1・2泊	99.2% (0.2%)	95.9% (-0.1%)	42.8% (-7.8%)
3・4泊	0.7% (-0.2%)	3.9% (0.2%)	37.5% (4.7%)
5泊以上	0.1% (—)	0.2% (-0.1%)	19.7% (3.1%)

() 内は前年からの増減

3 今後の対応

本結果は、区内の観光団体をはじめ産業団体、宿泊施設等へ広く情報を提供していくとともに、今後策定を予定している「(仮称)観光振興方針」の基礎資料等として活用していく。

令和6年台東区観光統計 報告書

1 概要と方法

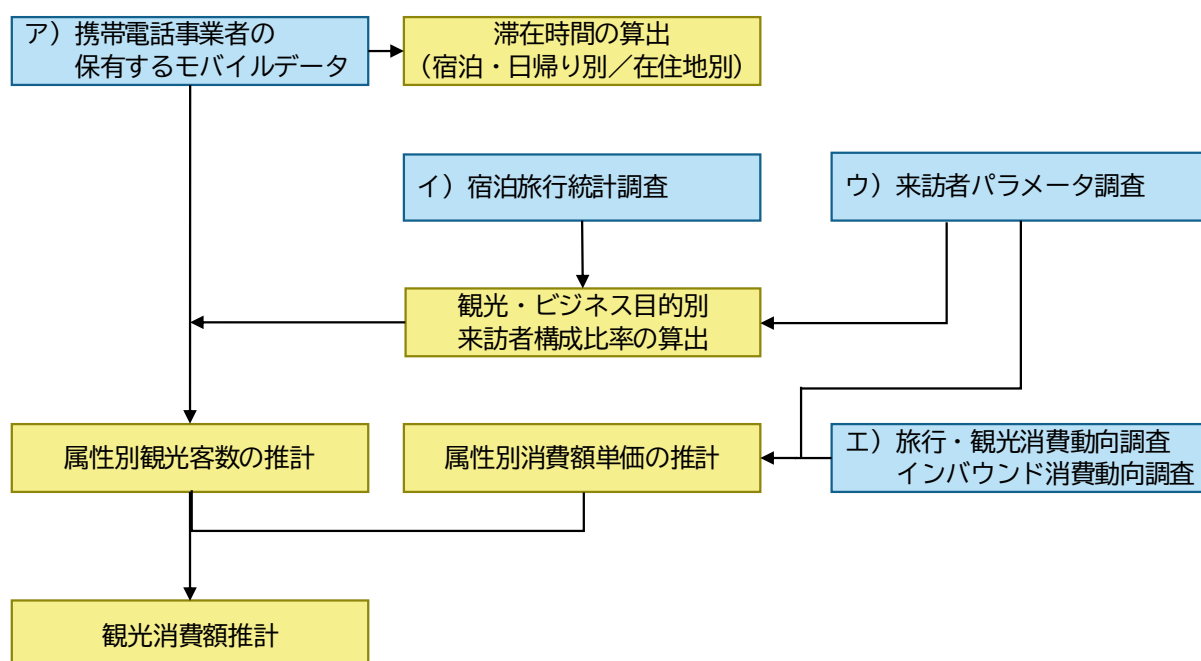
(1) 概 要

本調査は、令和6年1月～12月における本区の年間観光客数、観光消費額等を推計し、今後の観光施策における基礎資料とするものです。

(2) 方 法

観光客数、観光消費額の推計においては、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準及び調査要領」を基本に、各種統計データにより推計を行いました。

①フロー



調査・データ部分
 推計・分析部分

②調査データ

ア. 携帯事業者の保有するモバイルデータ

イ. 宿泊旅行統計調査

観光庁が実施した宿泊旅行統計調査の内、台東区内における結果の提供を受け、宿泊客における居住地別の観光目的とビジネス目的の構成比を算出した。

ウ. 来訪者パラメータ調査

令和5年においては、観光客数及び観光消費額を推計するためのパラメータの算出およびマーケティング分析のため、区内来訪者に対しアンケートを実施した。

本調査データより算出した日帰り客における居住地別の観光目的とビジネス目的の構成比及び属性別観光消費額単価を使用している。

エ. 旅行・観光消費動向調査及びインバウンド消費動向調査

観光庁が実施した旅行・観光消費動向調査及びインバウンド消費動向調査における消費額単価について、前回調査時（令和5年）からの比率を算出した。この比率をウ. の属性別観光消費額単価に乗じることにより、令和6年の属性別観光消費額単価を推計した。

2 台東区の観光客数

令和6年の台東区の観光客数は4,121万人（内、外国人観光客数は640万人）と推計された。前回調査（令和5年）と比べると259万人の増加、外国人観光客数は198万人の増加となった。いずれも、モバイルデータを活用した観光客数の推計を開始して以来、最多の数値となっている。

令和6年の訪日外国人客数は、過去最高の3,687万人（対令和5年比147.1%）を記録した。増加の要因としては、新型コロナウイルスの影響で減便されていた国際線の回復や、円安の進行による旅行コストの低下などがあげられる。

台東区の外国人観光客数は、訪日外国人客数とほぼ同水準の145.0%で推移している。

※出典：訪日外国人客数「訪日外客統計」日本政府観光局（JNTO）

表1 年間観光客数の推計

	令和6年	令和5年比	令和5年
年間観光客数（実人数）	4,121 万人	106.7%	3,862 万人
内、年間外国人観光客数	640 万人	145.0%	442 万人
内、年間宿泊者数	531 万人	109.1%	487 万人
内、年間外国人宿泊者数	216 万人	135.3%	159 万人

※数字の単位未満は端数処理をしているため、表中の数字と比率が一致しない場合がある。（以下同様）



図1 年間観光客数の推移

3 観光消費額

令和6年の観光消費額は4,058億円、1人当たりの観光消費額は9,847円と推計された。前回調査（令和5年）と比べると、年間観光消費額は646億円の増、1人当たりの観光消費額は1,011円の増となった。

観光消費額単価は、令和5年に対しては、すべての属性において増加している。円安による日本での消費の割安感から外国人観光客の購買意欲が高まっていることに加え、国内の物価上昇に伴う宿泊費や飲食費の増加、さらに地域特有の文化体験など高付加価値な観光へのニーズの高まりなど、複合的な要因が観光消費額単価の増加につながっていると考えられる。また、外国人観光客数の大幅な増加もあり、観光消費額としては令和5年比118.9%となっている。

表2 年間観光消費額

	令和6年		令和5年
		令和5年比	
観光消費額	4,058 億円	118.9%	3,412 億円
1人当たりの消費額	9,847 円	111.4%	8,836 円

表3 属性別の観光消費額単価

区分	日帰り客		宿泊客	
	観光目的	ビジネス目的	観光目的	ビジネス目的
都内在住者	3,993 円	1,495 円	15,176 円	27,991 円
都外在住者	8,183 円	6,843 円	15,814 円	28,271 円
海外在住者	9,013 円	11,645 円	56,965 円	36,793 円

表4 属性別の観光消費額

単位：百万円

区分	日帰り客		宿泊客		合計
	観光目的	ビジネス目的	観光目的	ビジネス目的	
都内在住者	46,097	2,976	5,156	11,777	66,005
都外在住者	127,773	17,090	19,577	32,739	197,178
海外在住者	36,911	1,784	69,389	34,519	142,603
合計	210,781	21,849	94,122	79,034	405,786
	232,630		173,156		

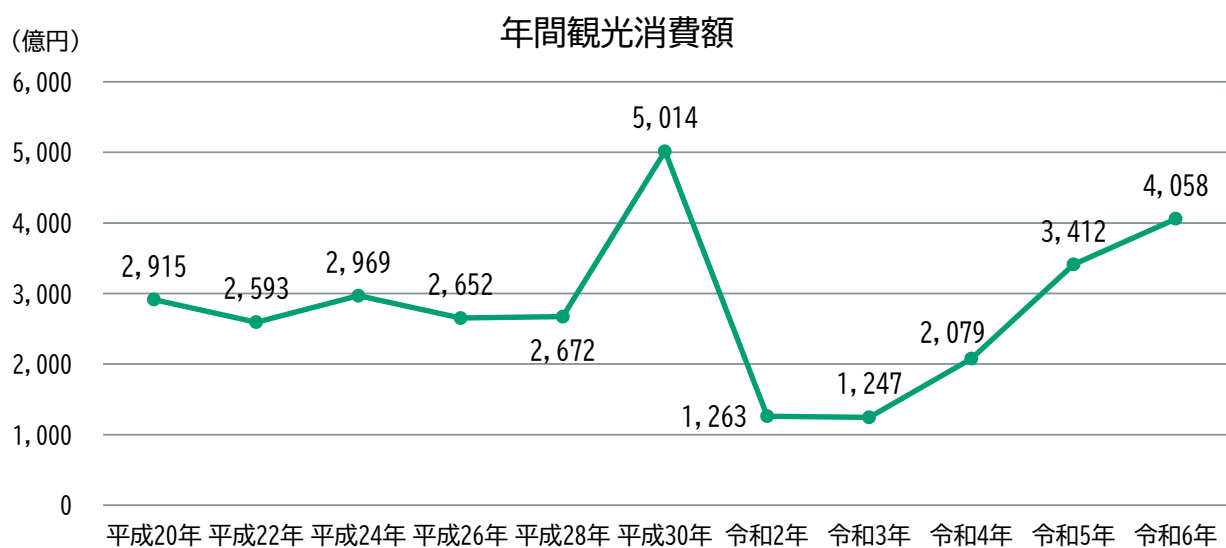


図2 観光消費額の推移（台東区全体）

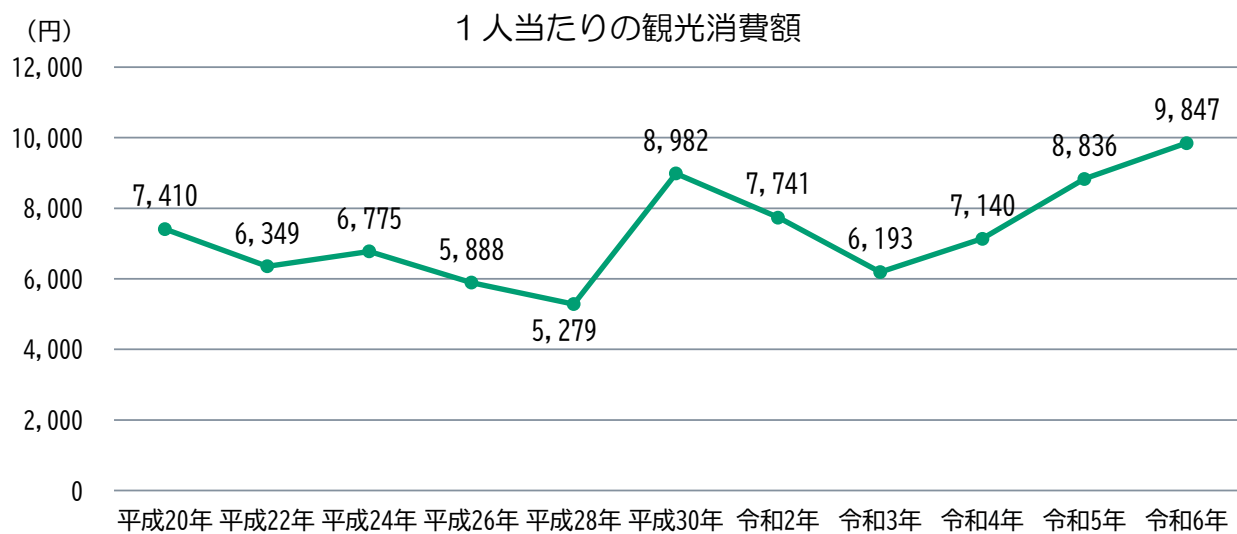


図3 観光消費額の推移（1人当たりの単価）

4 滞在時間・宿泊日数

日帰り客の台東区内の平均滞在時間は多い順に都内在住者、都外在住者、海外在住者となっている。いずれの在住者においても、2～4時間の滞在が最も多いものの、その割合は令和5年に対し減少しており、4時間以上の滞在割合が増加している。

宿泊日数においては、都内及び都外在住者は1泊及び2泊の宿泊者の割合が95%を超えるが、海外在住者においては、3泊以上の宿泊割合が57.2%となっており、令和5年に対し増加している（令和5年49.4%）。

表5 平均滞在時間・宿泊日数

※()内は令和5年の値

区分	全体	都内在住者	都外在住者	海外在住者
日帰り客	4.40 時間 (4.39 時間)	4.51 時間 (4.50 時間)	4.41 時間 (4.39 時間)	3.99 時間 (3.91 時間)
宿泊客	2.00 泊 (1.76 泊)	1.05 泊 (1.06 泊)	1.23 泊 (1.23 泊)	3.18 泊 (2.93 泊)

表6 日帰り客の滞在時間別割合

※()内は令和5年の値

区分	都内在住者	都外在住者	海外在住者
2～4時間	52.8% (53.1%)	54.8% (55.2%)	61.3% (63.4%)
4～6時間	28.0% (27.8%)	26.7% (26.6%)	24.5% (23.6%)
6～8時間	10.8% (10.7%)	10.9% (10.7%)	10.9% (10.3%)
8時間以上	8.3% (8.3%)	7.6% (7.5%)	3.3% (2.8%)

表7 宿泊客の宿泊数別割合

※()内は令和5年の値

区分	都内在住者	都外在住者	海外在住者
1泊	96.0% (95.4%)	82.3% (82.4%)	20.5% (26.6%)
2泊	3.2% (3.6%)	13.6% (13.6%)	22.3% (24.0%)
3泊	0.6% (0.7%)	3.1% (3.0%)	21.1% (19.0%)
4泊	0.2% (0.2%)	0.8% (0.8%)	16.4% (13.8%)
5～7泊	0.1% (0.1%)	0.2% (0.3%)	16.8% (13.9%)
8泊以上	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.9% (2.7%)